シリーズ企画　パワーアップ ふくしま

奥羽大 薬学部（郡山）

地域医療支え10周年

郡山市の奥羽大（赤川安正学長）は十六日、創立四十四年目を迎える。今年は薬学部が創設十周年の節目となる。県内初の薬学部として平成十七年に開設されて以来、広い知識や豊かな人間性を備えた薬剤師を養成し、医療機関や企業、自治体などに優秀な人材を輩出してきた。研究分野でも大きな成果を挙げており、開学当初から歴史を積み重ねてきている歯学部と共に地域医療を支えている。東日本大震災からの復興に向けた取り組みの一翼も担っている。

人間性豊かな薬剤師養成

奥羽大が平成十七年に薬学部を創設した背景には東北地方の薬剤師不足があった。全国的な課題だったが、東北地方の大学では一層深刻な状況だった。本県の地域医療の向上に貢献しようと新学部創設に踏み切った。

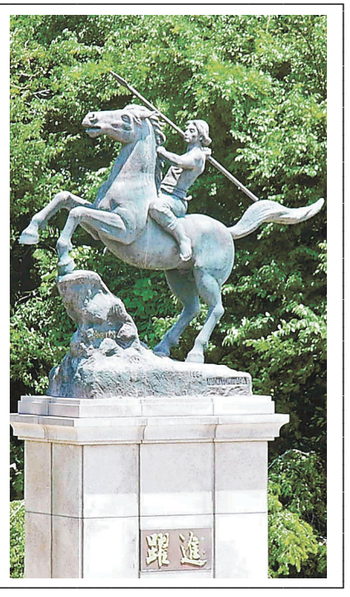
十八年に六年制に移行した薬学部は、薬学全般にわたる高度で幅広い専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成するカリキュラムを導入している。教養科目で専門性に偏らない幅広い視野や人間性、倫理観を育む。専門科目では確かな基礎をつくった上で、実習を通して課題探求能力、知識に裏付けられた実践能力を養う。さらに臨床実習で医療人としての人間性・倫理観、知識・技能・態度など学生の総合的な能力を育む。

一般的に一年次には医療・薬学に関する基礎知識、二年次は医療・薬学の専門的な学習、三年次に薬学の応用科目に加え、実習などを実施する。四年次は専門知識・技術を深め、五年次は病院、薬局などの医療現場で長期にわたる実務実習に臨む。六年次は卒業研究の発表や国家試験対策に臨み、薬剤師国家試験合格を目指す。

学部開設からの十年で五百四十二人が卒業した。薬剤師資格取得者は、100%の就職率を誇る。県内の主要総合病院や薬局をはじめ、大手製薬会社などにも送り出している。高齢化の進む県内では在宅医療の充実が求められており、調剤にとどまらず、多方面での活躍が期待されている。

薬学部は歯学部とともに薬剤師や歯科医を目指す全ての若者に就学チャンスを与えたいとの思いから学生の経済的負担を軽減できる学費制度を導入している。特に薬学部は全国の薬科大の中でも最も負担が軽い。

二十七年度からは歯学部とともに特待生制度を導入。特待生選抜入学試験の選抜基準に達した学生を対象に薬学部で三十人を上限に授業料を全額免除している（歯学部も三十人上限）。東日本大震災以来、県内の薬剤師不足が一層深刻化する中、県内で優秀な人材を確保し、地域医療を支える医療人育成に力を注いでいる。


1984年にキャンパス内に建立された創立記念銅像「躍進」。文化功労者、文化勲章受章、日展理事長などを務めた富永直樹氏の作

奥羽大薬学部長 衛藤 雅昭氏に聞く

産学官連携、復興に貢献

奥羽大薬学部の衛藤雅昭学部長は福島民報社のインタビューに応じ、薬学部の総力を挙げて地域医療を支える優秀な薬剤師養成や研究の推進などに取り組む決意を強調した。

―薬学部はどのような人材育成を目指しますか。

「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成します。少子・高齢化時代を迎え、地域医療や在宅医療に携われる薬剤師が求められています。政府が掲げる『健康づくり支援薬局』（仮称）の機能を果たすために、地域に根差した『かかりつけ薬局』で薬剤師が中心的な役割を担う必要があります。薬の管理や服薬指導、血糖値やコレステロール・中性脂肪値を測定するなど地域住民の健康を管理する能力を培っていきます。東北地方の在宅医療薬学の拠点を目指します」

―大学敷地内に附属病院を持つ薬学部は全国的にも少ないですね。

「歯学部附属病院では薬学部の教授が内科医として診療に当たり、薬局薬剤師は全員が薬学部の教員です。教員が臨床現場での研さんに努め、最新の知見を薬学教育に反映させています。

えとう・まさあき　大分市出身。東京大理学部、旭川医大医学部卒。米国ワシントン大内科研究員、川崎医大糖尿病内科助教授を経て平成17年に奥羽大薬学部の疾患薬理学教授に就き、23年から薬学部長。糖尿病専門内科医。66歳。

薬学部が四年制から六年制に移行されましたが、薬局や病院での実務実習が必修になりました。薬学部と一体となった附属病院は今後一層必要となる臨床に強い薬剤師の養成に非常に有利な条件です。さらに附属病院は学生の健康管理も担います」

―薬学部の教育態勢の特色は。

「少人数教育で学生一人一人の顔が見える個々に応じた教育を実践しています。各学年学生三～四人に教員一人が付き、六年間の成長を見守りながら専門的な指導や人間教育に力を入れています。教員は現役の内科医二人に加え、医療機関で薬剤部長を歴任するなど経験豊富な教員が五人います。東京大や東北大、北海道大をはじめ教員の出身大も多彩です。がん薬物治療や感染制御、糖尿病治療などの領域で専門性が高い教員がそろっています」

―産学官連携にはどう対応していますか。

「元来、薬学部は製薬の観点から産業界とのつながりは深い経緯があります。薬や医療の先端研究として生化学、遺伝子工学、プロセス化学、植物天然物化学など複数の分野で民間企業や行政機関との連携を進め、成果を通して本県の復興に貢献していきたいと考えています。具体的には細胞融合技術による抗体医薬の開発や歯周病・口腔（こうくう）がんの原因・診断・治療法の研究、漢方に欠かせない薬用植物の国内生産研究などに取り組んできました」

―卒業生はどのような進路を選んでいますか。

「薬学部の卒業生の就職先は非常に幅広く医療分野にとどまりません。製薬会社や化学・食品系会社、行政機関など社会のさまざまな分野で活躍しています。六年間の実践的な薬学教育で高い実務能力を身に付けた卒業生は、それぞれ責任ある仕事を通して社会に貢献しています」

薬学部6年生 熊谷 文哉さん

夢は研究者、充実の日々

「研究で世界に発信できるような成果を上げたい」。奥羽大薬学部六年生の熊谷文哉さん（三）＝二本松市出身、安達高卒＝は研究者になるという目標を持ち、勉強や研究に忙しい充実した学生生活を送っている。

高校時代から化学が好きだった。看護師の姉から薬剤師という職業の大切さを教わり、化学の知識を生かしながら患者の助けになれる仕事として憧れるようになり、地元で薬学部のある奥羽大を選んだ。

緑豊かな広大なキャンパスの恵まれた環境で、病院や調剤薬局で薬剤師として働くために勉強に励んでいた。転機は五年生になってから取り組んだ卒業研究。誰も知らないことを発見できる研究の面白さを知り、のめり込んだ。いつしか卒業後は助手として大学に残りたいと思うようになった。

学生の思いをきめ細かく酌み取りながら導いてくれている教授をはじめ教員らに支えられながら新たな目標に向かって努力を重ねる日々だ。「奥羽大の教育・研究者として世界で活躍する。それが復興にもきっと役に立つはず」。大志を胸に抱いている。

研究者という目標に向かって努力する熊谷さん

OHU UNIVERSITY 薬学部 10th ANNIVERSARY SINCE 2005
おかげさまで10周年
地域の皆さまと共に

平成28年度 特待生募集！
授業料全額サポート
歯学部 30名　薬学部 30名

歯学部 4,057名輩出
薬学部 542名輩出
旧文学部 4,109名輩出
※平成27年3月31日現在

心をみがく
環境と文化を創り
歯科医師・薬剤師を
養成します。

未来はもう、はじまっている。
Innovative Future
歯学部　薬学部
奥羽大学
（お問い合わせ先 企画・広報課）〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1　TEL：024-932-9055　FAX：024-933-7372　E-mail：info@ohu-u.ac.jp　www.ohu-u.ac.jp

奥羽大学 姉妹校
歯科衛生士科　歯科技工士科
東北歯科専門学校
〒963-8015　福島県郡山市細沼町12-18　TEL：024-932-5690　FAX：024-931-6659　E-Mail：bosyu@touhoku-ds.com　www.touhoku-ds.com/